2022 年度 事業報告書

2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日まで

学校法人　桑沢学園

目　次

Ⅰ．学校法人の概要

(1) 建学の精神等 …… 1
　１．創立者 桑澤洋子
　２．設置校 東京造形大学の建学の精神及び使命
　３．設置校 専門学校桑沢デザイン研究所の教育の趣旨

(2) 沿革 …… 2
　１．法人及び設置校の沿革
　２．歴代理事長・学長・所長

(3) 設置する学校・学部・学科等 …… 4

(4) 学生数の状況 …… 5

(5) 役員に関する情報 …… 6

(6) 教職員に関する情報 …… 6

Ⅱ．事業の概要

(1) 中期計画テーマに基づく事業実施状況 …… 7
　１.【埋蔵資源発掘】表現を通じて私と他者を発見する造形教育の実践
　２.【森林公園計画】対話が生まれる自由闊達な空間づくり
　３.【見える化】教育成果の社会発信と知識循環
　４.【やりガイ・働きガイ】多様な価値観を基盤にした仕事環境づくり
　５.【万が一のそなえ】社会変動に迅速に対応するリスク管理

(2) その他の事業実施状況 ……15

Ⅲ．財務の概要

(1) 資金収支、事業活動収支、貸借対照の状況 ……16

(2) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策 ……16

Ⅰ．学校法人の概要

(1) 建学の精神等

1．創立者 桑澤洋子

本学園の創立者桑澤洋子は、昭和初期から建築・室内設計・服飾等のデザインジャーナリズムの世界で活躍。その中で、1919 年に建築家グロピウスによってワイマールに設立された、造形芸術の総合学校「バウハウス」の存在を知り、その影響を強く受けます。

機能性や合理性を追求したデザイン活動をすすめる中で、デザインの総合的な基礎教育と専門教育の重要さを痛感した彼女は、教育機関の実現のため努力を重ね、1954 年、各界気鋭の教育者、芸術家、デザイナーたちの協力を得て、当時としては画期的なデザインの専門学校「桑沢デザイン研究所」を設立しました。さらに高度な造形教育を追求する場として 1966 年には「東京造形大学」を設立、学長・理事長に就任しました。

試行錯誤をおそれない、しなやかさの中にも強さを持った独特の教育方法で多くの人材を育て、卒業生たちは広い領域で活躍しており、その業績は高く評価されています。

2．設置校 東京造形大学の建学の精神及び使命

【建学の精神】

社会をつくり出す創造的な造形活動の探究と実践

東京造形大学は、デザインや美術の創作活動を時代の精神や社会の創造に深く結び付いたものとしてとらえ、それら造形活動を広く社会的な観点から探究し、進取の気概を持って創造的に実践することを建学の精神としています。

【使命】

1. デザイン及び美術の諸領域における優れた専門的知識・技術の教授研究
2. 社会全体を広く総合的な視点でとらえ、社会的問題の解決に向けて取り組むことのできる人材の育成
3. 造形活動を通した文化の創造と社会の発展への貢献

3．設置校 専門学校桑沢デザイン研究所の教育の趣旨

【教育理念】

未来へ向かっての人間の精神的・物質的両面からの要求に応える人材の育成

専門学校桑沢デザイン研究所は、1954 年の創立以来、教育理念（教育目的）として「未来へ向う人間の精神的・物質的両面からの要求に応える人材の育成」を掲げています。人々の生活が多様化し、また不断の変化を続ける 21 世紀の世界のなかで、この目標を達成するには、デザインという専門領域を通じて、新しい明日の生活を具現化することのできる能力を身に

つける必要があります。現実の制約や条件を創意の糧に転化し、自分の習得した技術や感性を使って独創的なデザインのできる人、さらに新しい社会の創造に加担できる人物、このような人材の育成を本校の教育指導上の具体的な目標としています。

(2) 沿革

1．法人及び設置校の沿革

1954 年	4 月	20 日	東京都港区青山北町に桑沢デザイン研究所設立
1957 年	12 月	7 日	学校法人桑沢学園設立認可
1958 年	4 月		桑沢デザイン研究所新校舎使用開始
1966 年	1 月	26 日	東京造形大学造形学部設置認可
	4 月	1 日	東京都八王子市元八王子町に東京造形大学開設
1976 年	12 月	9 日	専門学校桑沢デザイン研究所設立認可
1981 年	4 月	1 日	東京造形大学新教育運営制度発足
1990 年	6 月		八王子市宇津貫町に東京造形大学の新キャンパス着工
1991 年	12 月	20 日	東京造形大学臨時定員増認可（1992～1998 年）
1992 年	4 月	1 日	東京造形大学宇津貫キャンパス部分開校
			東京造形大学造形計画専攻、比較造形専攻新設
1993 年	4 月	1 日	東京造形大学宇津貫キャンパス移転、全面開校
1998 年	4 月	1 日	東京造形大学新教育課程実施、教育運営制度を 6 専攻に改編
2003 年	4 月	1 日	東京造形大学造形学部の学科構成を改編
			デザイン学科 9 専攻領域、美術学科 2 専攻領域
2004 年	11 月	30 日	東京造形大学大学院造形研究科設置認可
2005 年	4 月	1 日	東京造形大学大学院造形研究科造形専攻開設(修士課程)
			東京造形大学大学院棟(12 号館）使用開始
			専門学校桑沢デザイン研究所渋谷新校舎使用開始
			専門学校桑沢デザイン研究所基礎造形専攻（附帯教育）開講
2010 年	9 月	1 日	東京造形大学 CS プラザ(10 号館）使用開始
2011 年	4 月	1 日	東京造形大学教育課程改編、学部構成再編
			デザイン学科 8 専攻領域、美術学科 2 専攻領域
2015 年	10 月	30 日	東京造形大学大学院造形研究科造形専攻博士後期課程設置認可
2016 年	4 月	1 日	東京造形大学大学院造形研究科造形専攻博士後期課程開設
			東京造形大学大学院造形研究科造形専攻修士課程に
			造形教育研究領域を新設
2018 年	4 月	1 日	東京造形大学大学院棟(13 号館）使用開始
2020 年	4 月	1 日	専門学校桑沢デザイン研究所基礎デザイン専攻（附帯教育）開講
2021 年	4 月	1 日	専門学校桑沢デザイン研究所夜間部の教育課程を改編し、専攻デザイン科に改称
2022 年	3 月	30 日	専門学校桑沢デザイン研究所 渋谷区神南に新校舎取得

2．歴代理事長・学長・所長

●学校法人桑沢学園　理事長

氏名	就任期間
桑澤　洋子	1957 年 12 月 ～1974 年 5 月
氣賀　健三	1974 年 6 月 ～ 1994 年 5 月
山本　哲也	1994 年 6 月 ～ 1998 年 5 月
小田　一幸	1998 年 6 月 ～ 2014 年 10 月
有吉　　徹	2014 年 10 月 ～ 2015 年 5 月
田口　浩一	2015 年 6 月 ～ 2019 年 5 月
山際　康之	2019 年 7 月 ～

●東京造形大学　学長

氏名	就任期間
桑澤　洋子	1966 年 1 月　～　1973 年 4 月
阿部　公正	1973 年 4 月　～　1973 年 6 月
明石　一男	1974 年 4 月　～　1978 年 1 月
宮田豊太郎	1978 年 4 月　～　1980 年 3 月
鈴木　二郎	1980 年 4 月　～　1984 年 3 月
豊口　　協	1984 年 4 月　～　1992 年 3 月
海本　　健	1992 年 4 月　～　2000 年 3 月
白澤　宏規	2000 年 4 月　～　2008 年 3 月
諏訪　敦彦	2008 年 4 月　～　2013 年 7 月
有吉　　徹	2013 年 12 月　～　2017 年 3 月
山際　康之	2017 年 4 月　～

●専門学校桑沢デザイン研究所 所長

氏名	就任期間
桑澤　洋子	1954 年　4 月　～　1974 年　5 月
根田　みさ	1975 年　2 月　～　1981 年　3 月
高山正喜久	1981 年　4 月　～　1987 年　3 月
栄久庵憲司	1987 年　4 月　～　1990 年　3 月
氣賀　健三	1990 年　4 月　～　1993 年　3 月
横山　徳禎	1993 年　4 月　～　1996 年　3 月
市瀬　昌昭	1996 年　4 月　～　2005 年　3 月
小田　一幸	2005 年　4 月　～　2008 年　3 月
内田　　繁	2008 年　4 月　～　2011 年　9 月
浅葉　克己	2011 年　10 月 ～　2020 年　3 月
工藤　強勝	2020 年　4 月　～　2023 年　1 月
佐藤　竜平	2023 年　4 月　～

(3) 設置する学校・学部・学科等

東京造形大学

所在地：〒192－0992　東京都八王子市宇津貫町 1556

学部・研究科	学科・課程	専攻領域・専攻（研究領域）
大学院造形研究科	博士後期課程	造形専攻 （デザイン研究領域・美術研究領域・造形教育研究領域）
	修士課程	造形専攻 （デザイン研究領域・美術研究領域・造形教育研究領域）
造形学部	デザイン学科	グラフィックデザイン専攻領域
		写真専攻領域
		映画・映像専攻領域
		アニメーション専攻領域
		メディアデザイン専攻領域
		室内建築専攻領域
		インダストリアルデザイン専攻領域
		テキスタイルデザイン専攻領域
	美術学科	絵画専攻領域
		彫刻専攻領域

専門学校桑沢デザイン研究所

所在地：〒150－0041　東京都渋谷区神南 1－4－17

課程	学科等	専攻
デザイン専門課程	総合デザイン科 （昼間部・3 年制）	ビジュアルデザイン専攻
		プロダクトデザイン専攻
		スペースデザイン専攻
		ファッションデザイン専攻
	専攻デザイン科 （夜間部・2 年制）	ビジュアルデザイン専攻
		プロダクトデザイン専攻
		スペースデザイン専攻
		ファッションデザイン専攻
附帯教育	基礎造形専攻（夜間部 1 年制）	
	基礎デザイン専攻（夜間部 1 年制）	

(4) 学生数の状況

東京造形大学

2022 年 5 月 1 日現在

学部・研究科	学科・課程	入学定員	収容定員	学生数
大学院造形研究科	博士後期課程	5 名	15 名	9 名
	修士課程	50 名	100 名	126 名
造形学部	デザイン学科	285 名	1,168 名	1,409 名
	※3 年次編入	14 名	28 名	
	美術学科	95 名	390 名	397 名
	※3 年次編入	5 名	10 名	

専門学校桑沢デザイン研究所

2022 年 5 月 1 日現在

課程	学科等	入学定員	収容定員	学生数
デザイン専門課程	総合デザイン科 （昼間部・3 年制）	160 名	480 名	554 名
	専攻デザイン科 （夜間部・2 年制）	160 名	320 名	269 名
附帯教育	基礎造形専攻 （夜間部 1 年制）	40 名	40 名	45 名
	基礎デザイン専攻 （夜間部 1 年制）	40 名	40 名	40 名

(5) 役員に関する情報

2023 年 3 月 31 日現在

理事（9 名）		**評議員（20 名）**	
理事長	山際　康之	評議員	山際　康之
理事	田口　浩一	評議員	海士　智也
理事	遠藤　毅	評議員	川辺　英明
理事	小関　潤	評議員	中川　裕章
理事	森　まさあき	評議員	南澤　義晃
理事	生嶋　順理	評議員	和田　敏克
理事	大迫　修三	評議員	遠藤　毅
理事	大橋　正芳	評議員	御手洗　陽
理事	佐藤　竜平	評議員	米山　逸朗
監事（2 名）		評議員	田中　敬二
監事	白井　徹	評議員	大豆生田　守
監事	古山　正文	評議員	生嶋　順理
備考 理事定数　9～13 名 監事定数　2 名 評議員定数　20～30 名		評議員	石間　裕
		評議員	江口　響子
		評議員	大橋　正芳
		評議員	小関　潤
		評議員	佐藤　和也
		評議員	佐藤　竜平
		評議員	濱井　聡
		評議員	森　まさあき

(6) 教職員に関する情報

2022 年 5 月 1 日現在

区分	専任教員数	専任職員数
法人部門	—	7 名（役員を除く）
東京造形大学	49 名	54 名（嘱託を含む）
専門学校桑沢デザイン研究所	18 名	20 名

2022 年学校法人基礎調査に基づく

Ⅱ．事業の概要

学校法人桑沢学園は、2020 年度に策定した以下の「中期計画（Road to 2025：2021-2025)」に基づき、持続可能な経営による造形教育の社会寄与を理念として、年度ごとの事業活動を行っています。

中期計画テーマ

1. 【埋蔵資源発掘】表現を通じて私と他者を発見する造形教育の実践（＝教育研究）
2. 【森林公園計画】対話が生まれる自由闊達な空間づくり（＝学生支援、キャリア支援）
3. 【見える化】教育成果の社会発信と知識循環（＝広報、国際交流、社会連携）
4. 【やりガイ・働きガイ】多様な価値観を基盤にした仕事環境づくり（＝労務）
5. 【万が一のそなえ】社会変動に迅速に対応するリスク管理（＝リスク管理）

ここでは、中期計画（Road to 2025）に基づき 2022 年度事業計画に記載した事業及びその他事業について実施・進捗状況を示します。

(1) 中期計画テーマに基づく事業実施状況

1.【埋蔵資源発掘】表現を通じて私と他者を発見する造形教育の実践（＝教育研究）

● 東京造形大学

(1) 遠隔授業の導入に伴う授業運営体制の検証

遠隔授業と対面授業を併用する授業において、授業運営方法の実態にあわせ、オンデマンド方式／双方向型方式のいずれかの遠隔授業実施方法を選択できるようガイドラインに明記したことにより、授業運営方法の選択肢を拡充しました。

(2) 大学院修士課程における新教育課程の検討

学部長とともに実施した各専門部会へのヒアリングの中で、学部教育課程の課題のみならず､修士課程教育課程の課題についても意見を伺いました｡2023 年度の意見集約に向けて、整理を進めています。

(3) Office365 (PC ソフト) サブスクリプション契約（3 年契約 1 年目)、教職員・学生の同ソフトの安定した使用環境の確保

Microsoft Office365 のサブスクリプション契約を更新し、学生の個人利用及び非常勤教員を含めた教職員の利用を拡充しました。これにより、ソフトウェア購入の自己負担が生じることなくレポート作成や教員の授業準備などの利便性が向上し、かつ、事務局を含めたオフィス系ソフトウェアの環境をデファクト・スタンダードのものに一元化できています。

(4) 7-406、8-205、8-206、8-409 教室 音響機器更新、デジタル化の推進

専攻領域演習室である 8-205 及び 8-206（グラフィックデザイン専攻領域)、8-409（インダストリアルデザイン専攻領域）の各教室に設置しているプロジェクタ、マイクなどの映像･音響機器をアナログ仕様からデジタル仕様へ入替更新し､デジタル化を実施しました。

(5) 学生の制作環境向上を目的とした 7-106 教室の作業台天板交換及び木工制作を行うための頑丈で安定した作業台の整備

木工房（7-106 教室）における木工制作環境の向上を目的に、経年劣化の激しい作業台の天板を交換し、頑丈で安定した作業台を整備しました。

● 専門学校桑沢デザイン研究所

(1) 夜間部専攻デザイン科の教育課程を通じた社会人が修学しやすい授業運営の実施

複雑化した今日の社会状況に対応できるデザイン分野の人材育成を目的に、2021 年 4 月より専攻デザイン科(夜間部)へ改称し､社会人が修学しやすい教育課程を開講しました。2022 年度には完成年度を迎え卒業生を送り出しました。

(2) 夜間部附帯教育を通じたリカレント教育の強化

幅広い層へデザイン教育を提供することを目的として開設している附帯教育において、受講生数は定員を充足し、基礎デザイン専攻では全員が指定した教育課程を修了しました。その修了生のうち 8 名は、更に高度な専門教育を学ぶため、夜間部専攻デザイン科へ進学しています。

(3) 2021 年度に新たに取得した渋谷区神南の新教育施設を活用した教育課程の策定

新教育施設では、総合デザイン科 1 年次のクラス増への授業運営に対応するための時間割を策定しました。

(4) 二級建築士試験・木造建築士試験の受験資格・免許登録資格に向けた授業科目の新設

授業科目を新設し、2022 年度の昼間部スペースデザイン専攻の卒業生（2020 年入学者）より受験資格を付与することができました。

2.【森林公園計画】対話が生まれる自由闊達な空間づくり（＝学生支援、キャリア支援）

● 東京造形大学

(1) キャリア支援イベントへの学生の更なる参加促進を目的とした、オンライン・対面を併用したイベント運営

2021 年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、Google Meet や録画配信を活用したオンラインによる開催形式を取り入れたキャリア支援イベントを実施しました。新たに学生の興味・関心を高めるイベント「IT 業界・職種研究講座」、「外国人留学生就職ガイダンス」等を含め、年間を通して就職対策講座（全 22 回）、ポートフォリオ作成指導講座（全 8 回）、業界研究セミナー（全 3 回）等を実施し、「新卒応援ハローワークオンライン求人・登録会」は複数回開催することにより参加促進に繋げました。

(2) 低学年（学部 1・2 年生）を対象としたセミナーの継続的な実施及び低学年から参加可能なキャリア支援イベントの拡充

低学年の学生である学部 1・2 年生を対象とした「キャリアデザイン講座（全 6 回）」、「自分研究講座」、「造形大生のための業界研究フェア」等のキャリア支援イベントを実施しました。また、多くの学生が足を運ぶ学生食堂や売店に隣接する 10 号館 CS プラザにおいて、就職活動で使用した卒業生のポートフォリオの展示や就職課の利用方法について継続的に周知することにより、低学年から就職に対する意識啓発や就職課利用促進に向けた取組みを実施しました。

(3) 学生一人ひとりの学年や就職活動状況に応じたキャリアカウンセラー・職員によるキャリア相談体制の充実

学生相談は、対面及び Google Meet を活用したオンラインでの進路・就職相談を併用し、学生一人ひとりに応じた助言・サポートを行いました。また、新卒応援ハローワークや外

国人雇用サービスセンターと連携するなど外部機関の利用により相談窓口を拡充し、支援体制の充実を図りました。相談予約については、Google カレンダーによる「予約枠」システムを導入し、学生が予約しやすい（相談しやすい）環境の整備を行いました。

(4) 年間を通じた学生個々の就職活動状況把握の強化

アンケートフォームの活用により学生の進路状況を確認し、職員とキャリアカウンセラーが円滑なコミュニケーションを図ることで密に情報共有を行い、年間を通して学生個々の就職活動の状況について把握しました。教員との連携についても強化し、学生が志望する企業や選考状況について適宜ヒアリングする等、情報収集に努め、より一層丁寧な就職支援を行いました。

(5) 学生相談窓口体制の拡充

休学者、退学者の予防対策として、学生の心のケアを行う体制を強化するため、2022 年度後期よりカウンセリング枠を増枠しました。また、更にきめ細かいサポートを図るために、専門家によるコーディネーター制度を導入することについて検討を開始しました。

● 専門学校桑沢デザイン研究所

(1) 新教育施設の運用計画の検討、及び既存設備の年次計画による改修

５年次計画の２年目として、新しい空調設備に入れ替えました。

(2) 奨学金制度再編の検討

奨学金制度の再編について検討を開始しました。2023年度において継続して検討を行います。

(3) 授業改善アンケートの実施

2022年度より、授業を改善することを目的とした授業改善アンケートを開始し、半期ごとに実施しました。アンケート結果は科目ごとに集計し、分野単位にまとめて分野責任者にフィードバックすることで授業改善を促しました。今後の課題としては、回答率向上を目指すとともに、実施後の分析や活用方法について、結果を授業の改善に結び付ける組織的な取り組みを引き続き進めていきます。

● 学校法人桑沢学園

(1) 渋谷新教育施設の改修並びに運用体制の整備

2023 年度からの運用開始に向け、1 階の一部エリア及び地階を除く建物内装の改修工事を行いました。本教育施設は建設当初からの年数経過もあり、その間に建築基準法等の法令改正もされていることから、現行法令に準拠した改修を行っています。

(2) 施設計画と連動した予算編成の実行と定着化

各部門において中期計画方針に沿った事業計画及び予算編成を行い実施しました。引き続き実施計画における予算については精査を行いながら予算編成を行います。

(3) 第 3 号基本金の運用果実を原資とした学事・奨学資金事業再編の検討

学事振興事業においては、これまでの第 3 号、第 4 号事業を廃止し、予算未計上の事業で学長又は所長が特に必要と認める事業については、学長又は所長裁量費で実施するものとしました。

奨学資金事業においては、大学の既存制度の整理及び大学院への学内進学のさらなる促進を目的とし、奨学資金奨学金制度の改編を行いました。また、奨学資金予算は 2023 年度より、東京造形大学と桑沢デザイン研究所の各部門で予算計上をすることとしました。

3.【見える化】教育成果の社会発信と知識循環（＝広報、国際交流、社会連携）

● 東京造形大学

(1) 広域的な学生募集活動と受験者数の獲得

新型コロナウイルス感染症予防対策を講じた上で、6 月に専攻領域説明会、7 月にオープンキャンパスを対面方式で実施しました。また、業者等が主催する進学相談会 20 会場にブース参加するとともに、全国の高等学校・予備校 86 校に教職員が赴き、ガイダンスや模擬授業、ワークショップを実施し、対面による学生募集活動を展開しました。さらに、年間を通じて高等学校 9 校の団体キャンパス見学、97 件の個別大学見学を受け入れ、対面で本学の学修環境を説明・紹介する機会を設けました。

その結果、志願者数が、過去 10 年で最多となる学部 3,362 名、大学院 508 名となりました。

(2) 「志願者が求めている情報を得られる冊子」をテーマとした、大学案内の掲載内容及び誌面の再構成並びに本学の教育内容・教育環境や学生生活に関する情報の社会発信

これまで大学案内の全体の約 4 分の 1 を占めていたインタビューページを大幅に縮小して、入学試験情報、教育課程の説明、大学生活、就職支援、専門科目の授業内容等に関する記載を拡充し、志願者にとって実用的な「求めている情報を得られる」誌面構成にリニューアルして大学案内を発行しました。また、高等学校の生徒が進級した 4 月から情報収集が可能となるように発行時期を見直し 4 月初旬から配布を開始しました。

(3) 建学の精神をはじめとする本学の教育理念に基づく教育研究成果の積極的な社会発信

- 新型コロナウイルス感染症の拡大により中止していた協定校との交換留学生受入、派遣を 2022 年度後期から再開しました。各協定校担当者と、各国の感染・医療状況などの情報を共有し、受け入れた留学生、派遣した本学学生ともに安全で充実した学生生活を送れるように対応しています。
- 民間企業や地方公共団体などからの委託を受け、教員などが行う受託研究等事業を 5 件、教育研究や地域貢献につながる社会連携事業（継続中のものを含む）を 43 件実施し、本学の教育研究資源を活かした成果を社会に発信しました。
- 本学の研究成果である「東京造形大学研究報」等の論文などを電子的形態で集積・保存・公開する電子アーカイブシステム「学術機関リポジトリ」で公開し、積極的に社会に発信しました。

- 本学教員及び学生と山梨県郡内織物産地（富士吉田市、西桂町）のメーカー数社が織物産地復興に関する産学連携企画として 2009 年にスタートした「フジヤマテキスタイルプロジェクト」では、これまで新商品開発企画、人材育成、産地の復興など、様々な成果を積極的に社会に発信してきており、2023 年 3 月 22 日にはこの取り組みがきっかけとなって、山梨県富士吉田市及び西桂町と包括連携協定の締結に至りました。
- 「綴織」の技法に焦点をあてて活動している団体「オリリズム」の作品を紹介する展覧会「東京造形大学テキスタイルデザイン専攻領域 × オリリズム」を、桑沢デザイン研究所 1F で実施しました。同団体には本学卒業生も所属しており、「綴織」は本学の授業でも取り入れていることから、学生、卒業生、教員、作家による様々なアプローチからなる多彩な作品を展示し、テキスタイルデザインの可能性を広く示しました。また、来場者に対して、同時期に研究所からも便の良い場所で開催する卒業制作展、大学院修士課程研究成果発表展を案内することで、受験生層へのアピールにも繋げられました。
- 学内外における本学の教育研究活動や卒業生の活躍を、卒業生、在学生、保護者などへ広く発信するための新たなコミュニケーションツールとして、大学広報誌『iizo』を発行しました。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大により中断していた「見える化」活動の 2nd シリーズ第一弾として、アニメーション専攻領域を中心にした山手線ミュージアム開催の検討を開始しました。開催は 2024 年 3 月頃を予定しています。
- 「東京造形大学公式 facebook」・「東京造形大学附属美術館公式 facebook」・「東京造形大学公式 instagram」・「東京造形大学附属美術館公式 instagram」・「東京造形大学公式 twitter」・「東京造形大学附属美術館公式 twitter」・「東京造形大学附属図書館公式 twitter」、「東京造形大学公式 YouTube」を通じて、本学の活動を広く学内外に発信しました。
- 外部業者のネットワークを活用した情報の拡散（プレスリリース）により、本学関連のニュースの露出拡大に努めました。

●専門学校桑沢デザイン研究所

(1) オンラインツールを活用した遠隔地の志願者に対する PR、説明会の実施

年間の個別面談数118名のうち、51名がオンラインでの対応となりました。説明会は対面形式での開催がコロナ禍以前の状況に戻ってきたため、2022年度はオンラインでの説明会は行わず、対面を基本として実施しました。

(2) 公式 Web サイト、SNS 等を用いた情報発信

既存の学生募集媒体だけではなく、独自に情報コンテンツを作成し、オウンドメディアである公式Webサイトと公式SNSを強化することで、夜間部の受験を希望している高校生以外の者に対しても情報発信しました。

(3) Web 出願による志願者の利便性の向上

Web 出願システムの導入により、志願者がカード決済やコンビニ振込など、様々な方法

で入学検定料を納めることが可能となり、また、即時的に正確な志願者情報を取り込むことができるようになりました。

(4) 新型コロナウイルス感染症拡大の状況を踏まえた、オンラインによる国際交流活動の展開

5月16日と23日に夜間部の授業において、バウハウスの教員であったオスカー・シュレンマーの作品100周年を記念した「kuwasawa plays bauhaus : a triadic yokaiballet」をテーマに、オンラインのワークショップを行いました。

12月８日にはオスカー・シュレンマーのグラフィック連作『プレイ・オン・ヘッズ』（Play on Heads, 頭遊び）をテーマにオンライン・ワークショップを開催し、学生の作品を基に講評やレクチャーを行いました。

(5) 「卒業生作品展」など、展覧会を通した教育成果の情報発信

「卒業生作品展」の作品を学外に広く情報発信することにより、ブランド力を高め、学生募集、企業からの求人への活用を図ってきました。新型コロナウイルスの影響を受け開催が危ぶまれていましたが、実展示とWebサイトでの展示を展開しました。

Webサイトでは、インターネット上のバーチャル空間を設定して、アーカイブの機能も持たせることで、来場者と同様の鑑賞を体感してもらいました。来場者数は2,882名でした。

(6) 社会連携事業「渋谷みやげ」の正課教育の授業科目化

自由選択科目「ソーシャルデザインプロジェクト」として開講し、21名が履修しました。授業での成果は、渋谷区の障害者イベント「SHIBUYA FACTORY 428/294（シブヤファクトリーシブヤ／フクシ）」のシブヤフォント（新フォント・パターン）発表会にて、14名の学生より提案を行いました。

４.【やりガイ・働きガイ】多様な価値観を基盤にした仕事環境づくり（＝労務）

● 東京造形大学・桑沢デザイン研究所・学校法人桑沢学園

(1) 職場環境改善プロジェクトの推進

職員の職場環境改善のためのプロジェクトとして、東京造形大学・桑沢デザイン研究所・学校法人桑沢学園法人事務部の職員を構成員とした「桑沢ワークシフトプロジェクト」を2021 年度に引き続き推進しました。定期的なミーティングの開催、検討内容や取り組みについての職員への周知などの活動を通じて職場環境改善のための取り組みを継続しています。

5．【万が一のそなえ】社会変動に迅速に対応するリスク管理（＝リスク管理）

● 東京造形大学

(1) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大期における政府の水際対策に即した留学生の入国支援強化

感染拡大期における政府の水際対策に即した留学生の入国支援強化の方策として、旅行代理店との業務委託契約による留学生の入国サポート（入国後の待機施設の手配、自主検査の手配等）を実施しました。

(2) 学内における感染クラスター発生を防止する観点からの課外活動の指導

課外活動における換気、三密の回避、マスク着用、手指消毒の徹底、合宿不可などの方針をガイドラインに反映し、各活動団体に指導しました。

(3) 学生および学内関係者に新型コロナウイルス感染者が発生した際の拡大防止に向けた体制強化

新型コロナウイルス感染拡大防止の方策として、大学 Web サイトおよび学生用ポータルサイト（CampusNet）を経由し、Google フォームによる大学（医務室）への報告（本人の感染および濃厚接触、家族の感染、感冒症状を含む）を徹底しました。また、東京都の基準に準じた一定期間の入構停止措置を指示し、入構停止期間終了後、再度医務室への報告を義務付けるなど、学内での感染拡大防止に努めました。

(4) その他

- 2020 年 2 月より開始した新型コロナウイルス感染拡大防止、対策に関する検討、協議について今年度も継続して行い、通算 64 回の開催の中、感染者の対応、授業・行事の運用、休学者・退学者アラート対応、経済的支援などを実施しました。なお、社会的な動向や感染状況を踏まえ、2023 年 4 月以降は状況に応じて、山の会（運営協議会）で適宜検討を行います。
- 東京造形大学の教職員として、ソーシャル・メディアを閲覧・発信する際の留意点を記した「東京造形大学 ソーシャル・メディア ガイドライン」を発行し、全教職員に配付しました。
- 学内 ICT 環境の基幹インフラ、稼働システムの全体的な安定運用を図るとともに、入試・学費システムにおいては老朽化した基盤環境のクラウド化を行いました。

● 専門学校桑沢デザイン研究所

(1) 新型コロナウイルス再拡大時の授業運営方法に関する検討

活動指針の「活動制限レベル」に沿って、校舎内の滞留者数を制限しながら、対面授業を基本とした授業を実施しました。再拡大時の授業運営方法については、毎月開催している運営委員会にて感染状況を確認の上、検討しました。

● 学校法人桑沢学園

(1) 資産運用の運用方針の再検討と実行

学園にとって最も効率的かつ最適な資産運用方針を再検討するために、2022 年度から約 3 年を目途に、従来の債券運用以外の方法での試験的運用を開始しました。今後、試験的運用の検証を行い、本格的な運用方針の策定に向けた準備を進めていきます。

(2) その他の事業実施状況

● 東京造形大学

(1) 彫刻専攻領域の授業環境向上を目的とした石彫作業場の地面舗装工事を実施しました。

(2) 授業におけるネットワーク停止･切断トラブルを未然に防ぐために､7 号館 2F 工房事務室、及びグラフィックデザイン専攻領域準備室の有線 LAN ケーブル再配線と HUB 設置位置の移設を行いました。

(3) 展示壁としての利用を目的に、10 号館スロープの照明用ライティングレール、及び照明器具を設置しました。

(4) 授業における音声・映像音の向上のため、室内建築専攻領域の演習室（7-408・409 教室）にワイヤレス・スピーカーシステムを導入・設置しました。

(5) 学術研究の更なる推進を図るために､「教育研究助成金制度」を継続的に運用し、10 件の助成事業を実施しました。

(6) 小・中・高・大連携事業の一環として、各学校からの依頼に応じた「接続教育プログラム」（プログラム数：12）を 2 校で実施しました。

(7) 加盟する「大学コンソーシアム八王子」や「さがまちコンソーシアム」等と連携し、7 件の市民講座の提供等を行いました。

(8) 大学附属美術館で 7 件の展覧展を開催しました。このほか、大学院研究成果発表展など、教育研究活動に関連する展示を多数、開催しました。

(9) 大学附属美術館の収蔵品・寄贈資料及び大学附属図書館の収蔵書籍・資料の整備（保存環境改善、リスト化、検索システム作品情報掲載等）を実施しました。

● 専門学校桑沢デザイン研究所

(1) 昼間部総合デザイン科の入学定員増を目的とした学則変更

渋谷区役所に学則変更を届け出て、受理されました。これにより総合デザイン科の入学定員は 160 名から 200 名に増員となり、5 月より新たな定員による募集を開始しました。定員増に基づく広報活動を展開した結果、志願者数は前年より 3 割強増加しました。

Ⅲ．財務の概要

(1) 資金収支、事業活動収支、貸借対照の状況

資金収支、事業活動収支、貸借対照等の状況は、学校法人桑沢学園 Web サイト内「学園に関する情報公開」のページに掲出している各年度の決算報告書をご参照ください。

https://www.kuwasawa.ac.jp/report.html

(2) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

2022 年度は、前年度に引き続きコロナ禍という先行きが不透明な中、東京造形大学、専門学校桑沢デザイン研究所において、新型コロナウイルス感染症拡大予防の徹底を図りつつ、遠隔授業と対面授業を併用しながら教育活動を実施してきました。また、円安や原材料高騰による社会変動のリスクが懸念される中で、状況の変化に備えたインフラ予算を確保することにより、安定的な学校運営に努めてきました。そのような状況下でも東京造形大学においては、実習棟の空調設備改修工事、学生相談に関する対面カウンセリングの増枠による充実化、対面活動を重視した学生募集活動、大学広報誌『iizo』創刊等の施策をしてきました。

専門学校桑沢デザイン研究所においては、昼間部総合デザイン科の定員に関する学則変更、新教育施設の第一期改修工事、新教育施設を活用した教育課程の策定等の施策を行いました。法人部門においては資産運用の試験的運用、特定資産の組み換えによる利息収入の増加等の施策を行いました。

その結果、今年度決算において、事業活動収支計算書における教育活動収支差額は 3 億 3,667 万円、経常収支差額は 5 億 3,399 万円となり、単年度収支である基本金組入前当年度収支差額は、5 億 3,266 万円となりました。

今後については、東京造形大学及び桑沢デザイン研究所ともに、キャンパスは使用開始から一定年数が経っており施設設備の中長期的な修繕計画が課題となっています。具体的には東京造形大学については、都市計画道路敷設に伴うキャンパス整備計画や既存設備の修繕、また桑沢デザイン研究所は、本校舎における空調設備等の年次計画、新教育施設の第二期工事等、各々課題に対する検討を進めています。

今後も、学園として安定的かつ持続的な運営を行うために、学生生徒納付金、受験料収入の安定的確保はもとより、計画的な基本金組入や、資産運用、減価償却引当資産の組入等、強固な財務体質を構築するよう努めていきます。

以上